



平成26年5月9日
内閣府（防災担当）

南海トラフの巨大地震モデル検討会（第47回）及び 首都直下地震モデル検討会（第31回）合同会議 議事概要について

1. 検討会の概要

日時：平成26年3月28日（金） 13:30～15:30

場所：中央合同庁舎第3号館 防災A会議室

出席者：南海トラフの巨大地震モデル検討会：阿部座長、岡村委員、岡村委員、佐竹委員、平川委員、古村委員、翠川委員、山崎委員

首都直下地震モデル検討会：阿部座長、岡村委員、佐竹委員、古村委員、翠川委員、山崎委員 他

2. 議事概要

長周期地震動に関して、北村教授（東京理科大学）、小鹿副所長（（株）小堀鐸二研究所）、事務局から説明を聴取し、委員間で議論を行った。今回の議事の概要は次のとおり。

【長周期地震動について（過去地震の再現）】

○過去地震の再現から、M7クラスの地震の長周期地震動の計算では強震動を再現するモデルのSMGAを、面積を大きく、応力降下量を下げて計算してはどうか。

○大正関東地震の記録に対して再現結果は、P波・S波はよいが、後続の表面波が卓越する部分がないのではないかと。少し震源を5キロとか浅くして、震源の深さによってこの表面波の部分が効くかを確認してはどうか。

【長周期地震動の構造物への影響に関して】

○構造物の損傷か、室内の安全性か何にポイントを置くのかを決めたうえで、長周期動による影響についての表現を検討したほうがよい。

【長周期地震動の計算結果の揺らぎ】

○予測結果には不確定性が避けられないので、標準値から変動することとその幅を強調して、答えは1つではないことを強調した方がいい。

○構造物を設計する場合に、ある地震の震源モデルをつくったとしても、揺らぎがあるので、もっと大きい揺れる可能性があることに対し、どう設計するか議論となっている。発注者へうまく説明できるような手掛かりがあるとよい。

○破壊開始点によって結果の幅については、揺らぎではなくてシナリオで、こういうシナリオの場合のこうなるという出し方が必要ではないか。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当参事官 藤山 秀章

同企画官 中込 淳

同参事官補佐 平 祐太郎

TEL : 03-3501-5693（直通） FAX : 03-3501-6820